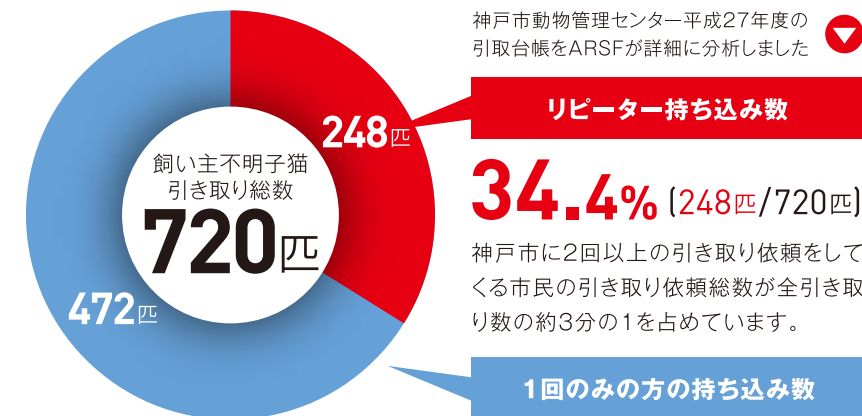


愛護の科学

平時にこそ災害時の被害減災を目指す



複数回にわたってノラ猫が生みつけた仔猫の引き取り依頼をする神戸市内のリピーター市民は **たったの23人**

だから **20%以上減らせる**

町単位の引き取りデータ数の分析とピンポイントの繁殖対策を実行すれば

平成27年度 リピーター持ち込み件数

東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
2件	0件	9件	13件	13件	15件	11件	4件	3件

ARSF対策済エリア 平成26、27年度現在、ARSFのクリニックのあった灘区(136,415人)では、リピーターの引き取り依頼が市内9区で唯一ありません。



ARSFは6年半のクリニック事業で引き取り数を57.5%減少させた後、地域ごとの引き取り数や引き取り頻度、増減記録を蓄積し、そしてその地域のフィールド調査を行っています。フィールド調査と統計で愛護政策を打ち出すこのプロジェクトのことを【Animal Stats.】と言います。



ほんとうに「繁殖がおさまった」とは？

- 1 行政に引き取り依頼を複数回する住民・世帯(リピーター)が消えることが2年以上続き
- 2 徘徊猫(ノラ猫と飼い猫の放し飼い)の個体数減少が複数年続き
- 3 その個体群の手術浸透率(耳カットと飼い主への確認)が70%を超えて
- 4 その70%以上を複数年維持している



これらを満たしている事を言います。それらをフィールド調査で証明しているのは神戸市灘区だけです。

東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区
青木	なし	中山手通	松本通	唐櫃台	御蔵通	横尾	神陵台	富士見ヶ丘

本会のフィールド調査と神戸市提供の詳細な統計を、〇〇町、△△通などの人口1000人以上の最小単位の地区データを基に4年間分析した結果、上記の地域が繁殖が非常に深刻で殺処分につながっている地域です。



横浜市多頭飼育崩壊

平時における多頭飼育者への早期対策こそが二次災害の予防に繋がる。多頭飼育は「神戸」「福島」にも多数あり、「熊本」にも当然早期の対策が必要だ。

写真は横浜市都筑区多頭飼育崩壊現場の様子。獣医師を派遣するなどして54匹に対策を打った

